

第 279 回 都市懇サロン レポ ー ト	「令和5年度 都市計画実務発表会 受賞業務について」
開 催 日	令和 6 年 4 月 10 日(火) 18:00～20:00
お 話 の 概 要 及 び 講 師	<p>『多様な価値観や社会変化に対応した新たな都市づくり』をテーマに開催されました令和5年度都市計画実務発表会において受賞業務として表彰された3件について、発表者から詳細に説明がなされた。</p> <p>①地域住宅団地再生事業を活用した官民連携による多世代共生・持続可能なまちづくり  <b>発表者：東日本総合計画(株) まちづくり本部本部長兼経営戦略本部副本部長 栗原 崇 氏</b>  埼玉県小川町の東小川住宅団地において、2020年に創設された「地域住宅団地再生事業」の建築物の建築等の許可の特例を提案し、官民連携による廃校活用を核とした「多世代共生・持続可能なまちづくり」を進めるため、都市計画コンサルタントと金融系シンクタンクのそれぞれのノウハウを効果的に活用して、一連の支援を行った。当取組は地域住宅団地再生事業の全国第一号事案、最終的には特例は活用しなかったが実質5カ月で用途地域と地区計画の変更を実現した。</p> <p>②自家所有償AIオンデマンド交通「ふく～るバス」導入に至るまで  <b>発表者：(株)千代田コンサルタント 九州支店 計画課 課長 川崎 謙次 氏</b>  福岡県福智町における、令和3年6月「地域公共交通計画」策定から、令和5年1月『町全域でAIオンデマンド交通「ふく～るバス」実証運行開始』、そして令和5年10月『自家所有償旅客運送による本格運行移行』を果たした。運航方式は町内全域でのAIオンデマンド運行を採用しており、到着予定時刻との差異、メッシュ別利用者数、トリップ相関図等のAIシステムの検証を行い公共交通の最適化に寄与している。</p> <p>③八王子駅周辺地区における景観絵本づくり  <b>発表者：(株)地域計画建築研究所</b>  <b>取締役東京事務所長 兼 ソーシャル・イノベーション・デザイングループマネージャー 坂井 信行 氏</b>  八王子駅北口の3本の放射状幹線道路とグリッド状の道路で構成される八王子駅周辺地区において、地区内の事業者、学生、まちづくりやデザインの専門家の参加のもと、ワークショップ、まち歩きや学生からの提案なども踏まえて、目指したい景観の将来像を共有。将来像のイメージスケッチにストーリーをつけた読み物として親しみやすい絵本「八王子まちなか 景観みらいものがたり」として取りまとめた。絵本に特化するだけでなく、絵本後半部分は将来像の解説編として充足している。</p>
意 見 交 換 の 概 要	<p>①まちづくり上の課題について  →用途地域と地区計画の変更で用途の幅が広がったこと。現状は第一種住居、建てられない規制のみと比較的緩めの規制。各事業者との賃貸借契約完了後の誘導策も必要。</p> <p>②運転手やオペレーターの確保について  →従来の福祉バス運転手2名+新規採用2名、オペレーターは新規で2名、現在は電話予約が9割とオペレーターも苦慮、将来的にはスマホ等によるAIシステムを活用した予約の割合を増やしていきたい。</p> <p>③ゆるく、ふわっとしたスタンスに対する自治体の受け止め方  →過去にスムーズに進まなかった経緯もあったことからか、あえてふわっと浮かせた将来像の共有方法に対して自治体担当者も抵抗なく賛同頂いた。</p>
記 録 者 の ひ と こ と	<p>『多様な価値観や社会変化に対応した新たな都市づくり』といった共通テーマでカテゴリズされているが、各業務とも地域特性や解決手法は様々。共通点として発表者の方々はもとより取組に対する自治体の本気度が伺えた。</p> <p style="text-align: right;">≪都市懇サロン運営部会 委員 兼松正幸≫</p>